

奥羽大学歯学部附属病院薬局業務の解析

—調剤, 薬品払い出し, 製剤業務の数値化—

遠藤初恵¹ 勝山 壮^{1,2} 渡辺由香^{1,2} 浜田節男³

Analysis of the Services at the Department of Pharmacy,

Ohu University Dental Hospital

—The Quantification of Dispensation, Supply and Preparation
of Medicines for Clinical Use at the Department of Pharmacy—

Hatsue ENDO¹, Sou KATSUYAMA^{1,2}, Yuka WATANABE^{1,2} and Setsuo HAMADA³

The present condition and the role of pharmacy were examined by quantifying the dispensation, supply and preparation of medicines for clinical use for past one year at the department of pharmacy, Ohu university dental hospital. The results indicated that the services at our pharmacy vary from the preparation for outpatients to the supply of the daily demand from several departments.

Key words : quantification, dispensation, supply, preparation

緒 言

現在, 薬剤師をとりまく環境は大きく変化している。薬学部は平成18年度より6年制が施行され臨床実習も必須化された。本学でも薬学部が新設され臨床に重きをおく教育になっている¹⁾。また, 病院勤務薬剤師においては, 病院の運営規模や組織上の配置により大きく役割は変化している。その役割として特に患者安全管理に対する貢献が望まれている。ただし, 病院における位置づけや人員配置などによりその機能や業務内容は大きく異なっている²⁾。そこで, 今回本学歯学部附属病院薬局における調剤, 薬品払い出し, 製剤業務の業務量を数値化し薬局業務の現状とその役割を検討した。

調査対象と期間

1. 調査対象

本学歯学部附属病院薬局は薬剤師2名で薬局業務を行っている。今回, 調査対象となる業務内容は調剤, 薬品払い出し, 製剤業務と大きく3項目に分類した。調剤に関する業務は外来および入院処方箋発行枚数を対象とした。薬品払い出しに関する業務は各部署からの薬品請求伝票, 麻薬伝票の各払い出し件数を対象とした。また, 薬品請求伝票の払い出し件数については請求部署別の検討も行った。製剤業務に関する業務は院内製剤の調剤件数を対象とし, 請求部署別の検討も行った。

2. 調査期間

受付: 平成19年4月5日, 受理: 平成19年4月18日
奥羽大学歯学部附属病院薬局¹
奥羽大学薬学部医療薬剤学²
奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座歯科薬理分野³

Department of Pharmacy, Ohu University Dental Hospital¹
Department of Clinical Pharmaceutics, Ohu University School of Pharmacy²
Division of Dental Pharmacology, Department of Oral Medical Science, Ohu University School of Dentistry³

平成17年4月1日から平成18年3月31日の1年間とした。

結 果

1. 調 剤

本学歯学部附属病院における年間の処方箋枚数は外来処方箋，入院処方箋，院外処方箋があり合わせて11,951枚であった(図1)。なお，処方箋は1枚1件とした。その内訳は外来処方箋10,720件(89.7%)，入院処方箋1,144件(9.6%)，院外処方箋87件(0.7%)であった(図2)。外来処方箋のうち歯科が9,377件(78.5%)，医科が1,343件(11.2%)であった(図2)。1ヵ月平均に換算すると歯科外来処方箋が781.4件，医科外来処方箋が111.9件であった。また，院外処方箋は7.3件，入院処方箋は95.3件であった。

2. 薬品・麻薬払い出し

薬品請求伝票では主に各部署からの請求に応じて手指や器具の消毒に使用される消毒薬や衛生材料(注射針やガーゼなど)，治療に用いられる注射薬を払い出している。また，注射薬に限らず，処置に用いられる内服・外用薬の請求も受けている。薬品と麻薬合わせての払い出しは年間1,393件であった(図1)。その内訳は薬品伝票1,197件で部署別に見ると，病棟からの請求が28.0%(年間335件)と最も多く，主に輸液や注射薬である。次いで手術室が18.6%(年間223件)で手術に関わる注射薬，衛生材料，麻酔薬などである。その他総合歯科では消毒薬や歯科用薬が多かった(表1)。麻薬の払い出しは196件でフェンタネスト注射液0.1mgが120件(61.3%)と最も多かった(表2)。

3. 製 剤

院内製剤は年間739件の調整依頼があった(図1)。また，請求部署別に見ると総合歯科が最も多く581件(78.6%)であった(表3)。さらに，調整した製剤は13品目で最も多い製剤はアクリノール0.05%が年間339件(45.9%)と最も多かった(表3)。

考 察

本学歯学部附属病院における外来1ヵ月平均処方箋枚数は893.3件，入院1ヵ月平均処方箋枚数は

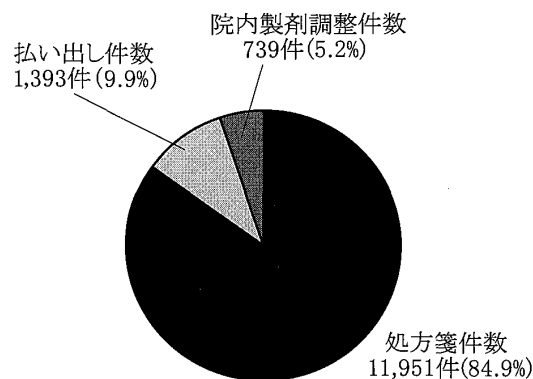


図1 薬局業務内訳

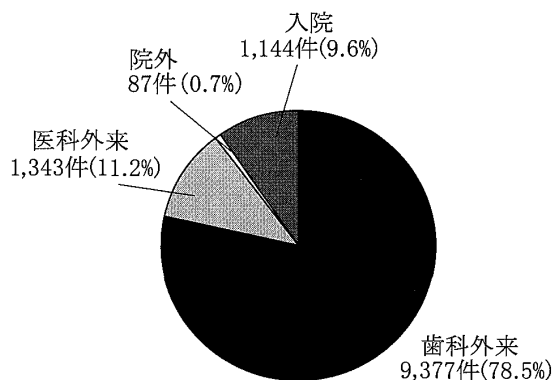


図2 発行処方箋内訳

は95.3件で外来調剤主体の業務体制であることが分かった。また，平成12，13年度の処方箋動向調査報告³⁾と平成17年度を比較してみると，処方箋枚数は11～13%増加していることが分かった。

薬品請求伝票による払い出しは病棟や手術室，総合歯科を中心に複数の部署から請求を受けており院内での医薬品や衛生材料の供給の役割を示す結果が得られた。麻薬の払い出しはフェンタネスト注射液0.1mgだけではなく内服薬・外用薬の麻薬も取り扱い麻薬管理が重要な業務を担っていると考えられる。

院内製剤はアクリノール0.05%やオキシドール1.5%が多く，特殊製剤のスリーミックスもあり診察や処置等を支援する役割を示すことが考えられる。また，現在薬局ではその他の業務として歯

表1 請求部署別にみた年間薬品請求伝票払い出し件数

請求部署	件数	比率(%)
病棟	335	28.0
手術室	223	18.6
医科外来	112	9.4
口腔外科	133	11.1
総合歯科	192	16.0
矯正歯科	26	2.2
小児歯科	59	4.9
歯科麻酔科	6	0.5
放射線科	9	0.8
薬局	56	4.7
検査室	16	1.3
栄養科	30	2.5
合 計	1,197	100.0

表2 麻薬払い出し

薬品名	件数	比率(%)
フェンタネスト注射液0.1mg(2mL)*	120	61.3
ペチロルファン (1mL)	4	2.0
MSコンチン錠10mg	12	6.1
MSコンチン錠30mg	9	4.6
MSコンチン錠60mg	16	8.2
デュロテップパッチ2.5mg	21	10.7
デュロテップパッチ5mg	12	6.1
アンペック坐剤10mg	1	0.5
アンペック坐剤20mg	1	0.5
合 計	196	100.0

*現在は名称がフェンタニル注射液0.1mg「三共」に変更になっている

表3 製剤別にみた年間院内製剤

特殊製剤	全 体	病 棟	手 術	医 科	口 外	総 合	矯 正	小 児	製剤(%)
エレースアイスボール	6	6							0.8
アクリノール0.05%(200mL)	339	1			2	310	4	22	45.9
アネステジンパスタ(10g)	2				2				0.3
オキシドール1.5%(300mL)	243					243			32.9
ハイアミン0.01%(500mL)	13					13			1.8
病理用ホルマリン水(250mL)	19	5	5		9				2.6
ヒビテンアルコール0.5%(500mL)	15		12	1		2			2.0
ヒビテングルコネート0.5%(500mL)	9			9					1.2
ヒビテングルコネート0.02%(500mL)	14			14					1.9
ヒビテングルコネート0.02%(5L)	28	28							3.8
滅菌ホウ酸水(300ml)	41	9	13	4		4	8	3	5.5
3 Mix	9					9			1.2
10%重曹水	1			1					0.1
合 計	739	49	30	29	13	581	12	25	100
比 率(%)		6.6	4.1	3.9	1.8	78.6	1.6	3.4	100

ブラシや医薬部外品類の患者への受け渡し業務も伝票により行っている。その総量は外来処方箋の半量～3/4量と割合多かった。受け渡し業務は短時間ではあるが患者さんとのコミュニケーションをはかる良い機会と考えている。

今回は、本学歯学部附属病院薬局における医薬品供給に関連する業務を数値化することにより薬局業務の現状について報告した。業務内容を数値化することにより薬局は外来調剤だけではなく各部署からの薬品請求や麻薬管理など様々な業務を

行っていることが明らかになった。

ま と め

平成17年4月1日から平成18年3月31日までの薬局業務について調査した。その結果、薬局業務内訳で最も件数が多かったのは、処方箋調剤件数で全体の84.9%を占めていた。そのうち歯科外来処方箋は78.5%であった。各部署別年間薬品請求伝票が多かったのは病棟、手術室で全体の46.6%を占め次いで総合歯科、口腔外科、医科外来の順

であった。また、麻薬の払い出しが多かったのはフェンタネスト注射液0.1mgで全体の61.3%を占めていた。

文 献

- 1) 東海林 徹, 多田 均, 永井正博: 薬学教育 6 年制を考えるー実務実習を考えるー. 医薬品相互作用研究 **30**; 35-39 2006.
- 2) 藤上雅子, 大野知俊: 診療所薬剤師の業務実態

調査報告. 日病薬誌 **36**; 251-259 2000.

- 3) 浜田節男: 奥羽大学歯学部附属病院薬局における平成12, 13年度処方箋動向. 奥羽大歯学誌 **30**; 197-203 2003.

著者への連絡先: 遠藤初恵, (〒963-8611) 郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学歯学部附属病院薬局

Reprint requests: Hatsue ENDO, Department of Pharmacy, Ohi University Dental Hospital
31-1 Misumido, Tomita, Koriyama, 963-8611, Japan